

## 第二言語習得における学習環境の影響 —台湾人の日本語学習者による指示詞習得を対象に—

孫 愛維

学位取得年月：平成 22 年 3 月  
取得学位名：人文科学博士  
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 学習環境、 指示詞習得、 現場指示、 非現場指示、 学習ストラテジー

【要旨】

第二言語習得理論と実際の経験的見地から、学習環境が第二言語習得を左右する重要な変数であると見なされている。しかし、学習環境が第二言語習得どのような影響を及ぼすかに対しては、認証基準の不確定さや研究デザインの不備という方法論的な問題を抱えたまま、未だほとんど明らかにされておらず、実証研究に基づいた学習環境の影響の究明が待たれる。また、どうすれば学習環境の利点を最大限に発揮させ、習得に成功する学習者が増えるのかについて考察するためには、学習主体である学習者自身がどのような考え方をもち、どのような学習ストラテジーを使用するか等の視点も取り入れて考察することが必要とされる。そこで、本研究は指示詞習得を例として、日本国内で日本語を勉強している学習者(第二言語としての日本語学習者、以下 JSL)と自分の母国で日本語を学習している学習者(外国語としての日本語学習者、以下 JFL)の言語習得に着目し、そこに学習環境がどのように関与し、学習ストラテジーとどのような関係にあるかについて調査する。

調査の結果、現場指示(話し手が視界内の事物を指差しによって示す用法である)については、日本語能力に関係なく、JSL は JFL より現場指示の習得が早く進み、目標言語圏で勉強することは現場指示の習得を促進することが示唆された。続いて、誤用を探ったところ、全体的に誤用は JFL に多く見られ、母語知識の「道(「コ」に相当する)」と教室内での指導の影響による「誤用のコ」と「誤用のソ」が多く産出された。他方、非現場指示(発話の中で言及される事柄を指す用法である)の場合は、下位レベルの学習者において、JSL と JFL の間に有意差が見られなかったが、上位レベルの学習者においては、JSL は JFL より指示詞の習得が進んでいた。これは、日本語能力によって学習環境が非現場指示に与える影響の度合いが異なる可能性を示唆している。誤用については、中国語からの負の転移である「誤用のコ」は、全体的に JFL より JSL の方が少ないが、「誤用のソ」は下位レベルの学習者では JFL より JSL に多く見られた。これらの結果により、JSL では母語転移による「コ」の誤用が減少するものの、日本語能力が低い段階では、日常生活において使用頻度が最も高い「ソ」に影響され、「ソ」を過剰使用する可能性が示唆された。

次に、学習ストラテジーが指示詞習得に影響を及ぼし得るかを分析した結果、際だった学習環境の差が見られた。JFL では、学習ストラテジーは現場指示の習得を促進するために重要な役割を担っているが、JSL では学習ストラテジーの効果が認められない。非現場指示の習得においては、比較的習得されやすい単純照応指示以外、学習ストラテジーの使用が JFL 学習者の非現場指示の習得の向上に寄与しないことがわかった。JSL では、上位群において、独立的话题指示以外は、学習ストラテジーの有効性が見られたが、言語能力が低い JSL 下位においては、単純照応指示のコを除き、学習ストラテジーを使用しても非現場指示の習得を向上するには寄与しない。これらのことから、JFL 下位・JFL 上位・JSL 下位の非現場指示の習得に対して、学習ストラテジーの効果はかなり限定的で、何らかの支援・指導が必要であることが示唆されている。

(そん あいひ)